

I. はじめに

- ・ 篠路駅周辺地区は、昭和63年に策定された「第3次札幌市長期総合計画」において、地域の生活文化の拠点となる地域中心核に位置付けられ、また本市の新たなまちづくり指針として平成25年10月に策定された「札幌市まちづくり戦略ビジョン」でも、地域交流拠点の一つとして位置づけられている北区北部の重要な地区である。
- ・ これまで、地域のまちづくりへの取組が本格化した平成7年以降、地域の方々とともにワークショップや勉強会などを積み重ね、平成9年にはまちづくりの目標像となる「まちづくりガイドライン」を、平成14年には整備計画となる「篠路駅周辺地区まちづくり事業計画」（以下、「事業計画」という）を策定するなど、地域の方々と札幌市との協働によるまちづくりを進めてきた。
- ・ 現在の篠路駅周辺は、駅西側での市街地再開発事業や駅前広場整備など一部の事業が完了しておりますが、鉄道による市街地の分断、横新道の踏切付近での慢性的な渋滞、駅周辺での社会基盤が弱いなどといった課題を抱え、地区全体のまちづくりは道半ばの状況にある。
- ・ このような中、当地区において地域が抱える課題を解消するとともに、拠点としての役割を機能させていくため、改めて事業計画の柱である鉄道高架と土地区画整理による一体的なまちづくりの実現を目指していくこととなった。
- ・ 本書は、上記まちづくりにおける具体的な整備内容を、とりまとめたものである。